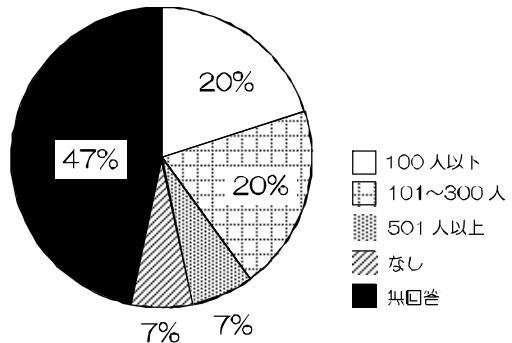


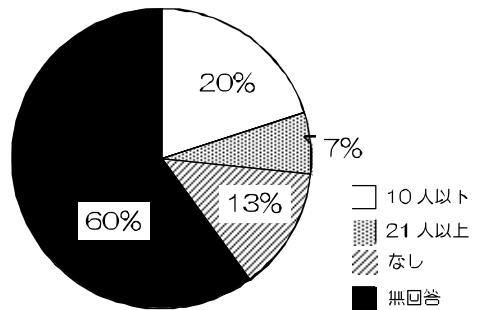
[年間逆紹介件数]

逆紹介件数	病院数
100人以下	3病院
101～300人	3病院
301～500人	0病院
501人以上	1病院
なし	1病院
無回答	7病院
平均値	170.7人



[救急件数]

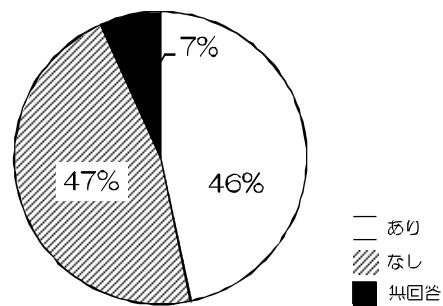
救急件数	病院数
10人以下	3病院
11～20人	0病院
21人以上	1病院
なし	2病院
無回答	9病院
平均値	9.5人



⑦ 相談支援窓口の状況

[児童精神科外来部門における相談窓口担当配置の有無]

相談窓口	病院数
あり	7病院
なし	7病院
無回答	1病院



[担当職種]

- ・外来看護師
- ・精神保健福祉士
- ・ケースワーカー
- ・相談員

2) 児童精神医療に関する意見

※回答内容は、ご返却いただいたご意見を転記することを基本としていますが、回答元が特定されると判断した内容等については、一部改編しております。

① 貴院の児童精神科は周辺地域からどのようなことを期待されていると感じていますか。

分類	内容
全般	他の医療機関で対応困難な児童・思春期の精神疾患全般の治療
	一次医療機関から三次医療機関（入院治療）までの中核機関としての役割
	難治例への対応
	児童精神科全般の入・通院医療。中でも通院では発達障害、入院では児童虐待・摂食障害
入院対応	教育機関で対応困難な不登校児への入院治療及び外来治療 一時保護児童の入院委託
	・児童精神科外来を持つクリニックからは、入院が必要なケースをできるだけ速やかに入院させられる病院であること。 ・身体合併症のあるケースを治療できる児童精神科であること。
	児童思春期外来があり、さらに約40年の歴史を持つ、院内分校を併設した児童思春期病棟を備えた治療施設としての専門性を期待されている。医療と教育を統合しつつ、治療にあたる役割がさらに増している。
	急性期の入院治療（近隣に児童思春期病棟をもつ小児病院があるため）
	当県は児童精神科医の豊富な地域であり、児童精神科領域の入院を積極的に受け入れている医療機関が5~6カ所程度存在し、それぞれ機能分化して診療を行っている。その中で当院の児童精神科は特殊な存在であり、主に青年期以降の中・重度精神遅滞を伴う行動障害事例、身体合併症事例を受入れており、今後もそうした機能を期待されるものと考えられる。一方外来初診例は、主に就学前から学童期の発達障害圏の患者が多く、外来と入院の機能が分離している。
	入院機能の充実
	アウトリーチ活動
発達障害支援	発達障害の精査、療育相談、診療
	発達障害の確定診断
	児童の分野、特に発達障害の子どもに対する対応、不登校の児童（生徒）への対応など、学校側からアドバイス等を求められることが多いように感じています。学校にとっては、精神科医療は敷居が高く、連携がとりにくいように感じているようでしたが、当院の思春期の方を中心に診察しているDr.が各地へ講演に出向くなど地道な活動を通じて、その敷居は今は少し低くなりつつあるように思います。

分類	内容
不登校対応	学校関係からは多動・不登校等学校不適応者への対応や、アドバイスを求められ、小児科等の医療機関からは当院が小児総合病院ということもあり、摂食障害などの身体合併症例を依頼される。しかし、全般に困ればなんでもという面もあり、医療に適さない相談も時にあります。
他施設との連携 (拠点機能)	児童相談所、教育センター、児童自立支援施設等の嘱託
	・児相・施設からは激しい行動化に対応できる病院であること。 ・児童精神科医の供給元であること。
	平成24年度から、子どもの心の診療ネットワーク事業を行っており、本県の7圏域（保健所圏域に準ずる）における思春期相談の支援や、子どもの心の診療に携わる保険・医療・福祉（児童福祉）・教育の連携の機能を充実させる拠点としての役割が期待されている。
	・乳幼児の精神発達とその障害へのサポート ・院内他科入院中の病気・障害をもった子供の精神的サポート ・地域の療育事業への専門的サポート
	診断・治療・教育福祉機関との連携
	教育・行政との連携 人材育成

② 児童精神医療に携わる中で、周辺地域にどのようなことを期待しますか。

分類	内容
全般	一次医療機関の充実（小児科・精神科）
	紹介・逆紹介の導入
	一次医療機関の充実（小児科・精神科）
退院支援	退院後の患者のフォローアップができる医療機関が多くなること。
発達障害	特に発達障害の事例については、診断、投薬以外の日常的な支援は、必ずしも医療資源を要するものではなく、保険、福祉、教育等の領域での支援の拡充により、過剰な医療ニーズを抑制することが必要である。
成人精神科医療	成人精神科医療が適当と思われるケースの転医。
	過齢児、成人に到した方の引継ぎ、紹介を受けてほしい。
他施設との連携 (拠点機能)	教育機関、福祉機関、療育機関でのフォローが必要なケースに於ける連携。
	・発達障害のアセスメント、診断、療育ができる医療/福祉機関が多くなること。 ・福祉・教育機関とのより「開かれた」連携

分類	内容
他施設との連携 (拠点機能)	長年の当院の診療の実践を通して、周辺地域における保健・医療・福祉（児童福祉）・教育と、ゆるやかな連携が形作られ、確かな信頼関係も醸成されてきている。さらに、児童精神医療への理解を深めて頂きたいと思う。
	児童分野のある精神科が各地に拠点としてあればいいなと感じます。本県の現状として、児童の対応ができる精神科が県央地区に集中しており、県内でも治療や支援を受けられる人に地域格差が出てしまうように思います。各地、各県に安定した拠点があり、各施設が連携して取り組んでいけることを期待します。
	また複数医療機関への重複受診による非効率を避けるため、地域全体での受診行動調整ができるとよい。
	診療機能分担
その他	未自立青年たちの居場所となる場がさらに拡大することなど
	福祉なり、教育なり、身体医療なり、それぞれ自分達が出来る範囲を考えて丸投げせず半分は担いで欲しい。
	虐待などの養護性の高いケースへの介入

③ 受診対象年齢を過ぎた患者に対して、どのようなフォローを実施していますか。

分類	内容
児童精神科で ひきつづきフォローオー	成人後も児童精神科外来でフォロー
	現在は継続してフォローを行っているが、いずれ制度が必要であると考えられる。
	受診可能年齢の上限に、若干の例外を認めている。他は特になし。
	逆紹介に苦労しています。フォローアップするには限定的にしています。そうでないと物理的に児童をみれなくなってしまうので。
	高校年代程度までは外来フォローするが、それ以降は転医。
制限あり	原則18歳（状況によって20歳頃）までフォローしたいです。以後は他院を紹介していますが、紹介が難しい場合は当院の成人担当に引き継ぎます。（多くはありませんが）
	他院を紹介する
	当院では対象年齢が過ぎても、一般の精神科外来として診療しています。
成人精神	成人外来でフォローしていくか、地元クリニックでフォロー

分類	内容
成人精神	<p>当院は、成人の一般外来及び入院病床もあるため、そちらに移行し、継続して診療を行っている。精神科臨床では、通院先やスタッフなどの環境をできるだけ変えないことが、診療中断を防ぎ、患者・家族の安心感につながることが多く、他の児童精神科単科の病院と比べ、当院ではシームレスな診療が可能となっている点は、大きな利点だと思われる。</p> <p>また、成人の精神科もあるため、精神保健指定医の資格取得など、若手医師のキャリア形成にもきわめて有利となっている。</p>
その他	他院や障害者相談センターを紹介している。

④ 身体ケアの必要な患者の対応はどうされていますか。

分類	内容
院内他科対応	総合病院であり、他科にコンサルト。
	院内コンサルテーションでほとんど対応可能
	当院内で対応（総合病院なので）
	小児総合病院のため、特に問題はなし。
	小児科が併設されているので依頼します。（状況により外科系や救命救急センターも対応）
対応不可	同院他診療科にお願いをしている。
	当院ではお断りすることが多い。
その他	当院は精神科単科であるため、必要に応じて他科へ紹介しています。
	同じ県立病院から内科医派遣（2回/月、4H/回）
	同じ県立病院への受診
	他医療機関（他科）受診
	近くの皮膚科医の対診
	地域内科医師による往診と他科受診
	院内他科あるいは他院と併設、共観

- ⑤ 児童精神医療に携わる中で、問題点や課題点がありましたら、ご記入ください。また、問題点や課題点に対する取り組み、改善方法などのご意見やご提案がありましたらご記入下さい。

分類	内容
初診対応の遅れ	外来治療が当院と含め、一部医療機関に集中するため、初診への対応が遅れる。 初診予約枠を増やして対応しているが、限界がある。
成人対応 発達障害の対応	発達障害の初期アセスメントは重要な課題でありながら、地域でアセスメントできる医療機関が十分に存在しない。 →地域の医師会や療育システムへの組織的なはたらきかけ。行政医療に対する行政の理解が十分ではない。 →児童精神科医療の必要性が行政並びに住民に理解されるための努力を続けていく。
成人対応 発達障害の対応	成人期への移行の問題 成人発達障害への対応 発達障がい（重症、知的障害の重い方も含めて）が成人まで児童精神医療に担わされてきたことが大きな問題だと思います。成人発達障害への医療、福祉の体制整備、若い医学生が児童精神医療をやろうと思えるような不安な職場環境ポストができていかなくては、危機はつづいていくと思います。
ティケア	児童ティケアが少ない
連携	児童精神科の診療施設は、まだ限られており、児童精神科医やコメディカルも非常に少数であり、指導できるものも数少ない状況である。 県内の医学部卒業生の残留が極めて少ない中にあって、病院機能の維持自体が困難である。既存の児童精神科診療施設の機能をまずは維持しながら、研修医やコメディカル等を育てるとともに、一方で他機関と連携し、病院機能を強化していく必要がある。 今年度、新規事業の一環で大阪、東京、静岡などの病院を視察し、それぞれ病院の”治療文化”とでもいうべきものに触れ、長い治療の営みをとして築かれたことに感銘を受けた。貴重な治療の場の中心にあるスタッフを、まず最大限尊重することが、最優先と思われる。
	当院では、児童精神科の対象年齢がすぎても一般の精神科外来として治療していますが、児童相談所と連携をとっていたケースも多く、18歳以降も引き続き公的な支援をとぎれなく継続的に受けられるよう、児童相談所と障害福祉課の連携体制を整えてもらえたと感じています。
医師不足	成人後も外来フォローする体制のため、異動のない一部医師に再来患者が集中しやすい。

分類	内容
医師不足	他機関との連携を常に意識している。逆紹介できるところを増やしたい。子どもの心の診療拠点病院をとりたいが、都道府県の事業なので、当院は政令指定都市立のため、とることができないままである。何とかしたいが医師の補充で苦労している。
	医師が足りません。また入院施設は専門性のため現に不足しております。
	児童精神科医の養成、確保が最も大きな問題である。そのために県による寄付講座の設置等を含めた大学との連携、地域での医師の交流を促進するための活動、地域全体でのトレーニー確保に向けた広報活動などを行っている。当院においては今後、医療クラーク配置の促進などにより、医師の負担軽減を行い、専門領域に集中できるような配慮が必要であると考えられる。
その他	<p>児童心療センターの状況は全児協でも話題になっています。現場のスタッフの話に耳を傾け、札幌市、さらには北海道の子どもたちのために児童精神科医療の中核機関としてぜひ立て直して下さい。</p> <pre> graph TD A[「育てる」要素が治療期間を長くする] --> B[Payしない] B --> C[どんな事象にも精神的因素が関わる] C --> D[我々が閉鎖的] D --> E[啓蒙活動が少ない] E --> F[児童精神医療の無理解] F --> G[期待が大きすぎる(何でも持ち込まれる)] G --> H[後継者養成の不備] H --> I[専門外来・病棟不足] I --> J[入院・外来とも待機時間が長い] J --> K[マンパワー不足] K --> L[期待が大きすぎる(何でも持ち込まれる)] L --> M[後継者養成の不備] M --> N[専門外来・病棟不足] N --> O[入院・外来とも待機時間が長い] O --> P[従事者の疲弊] </pre>

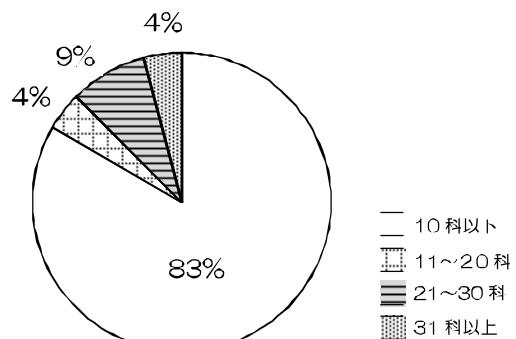
(2) 市内の精神科病院

1) 病院基本情報

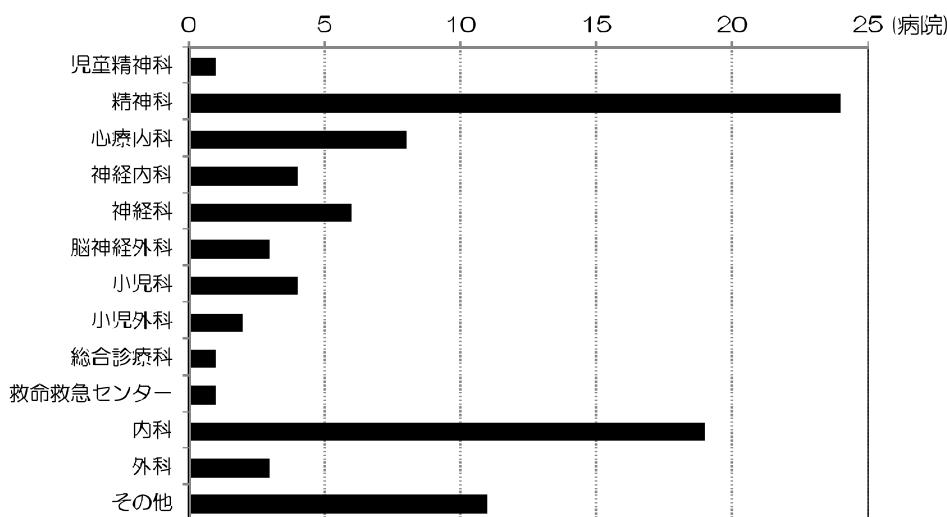
① 診療科の状況

[診療科数]

診療科数	病院数
10科以下	20病院
11~20科	1病院
21~30科	2病院
31科以上	1病院



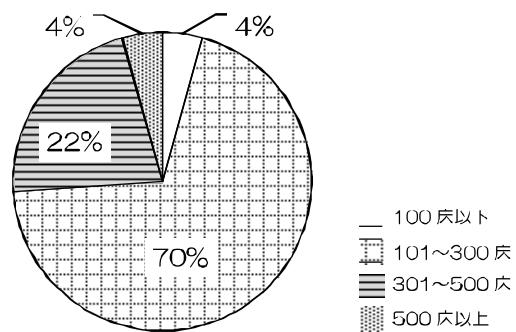
[主要診療科]



② 病床の状況

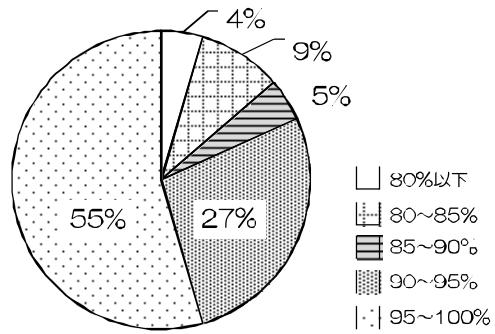
[総病床数]

総病床数	病院数
100床以下	1病院
101~300床	16病院
301~500床	5病院
501床以上	1病院
平均値	280.2床



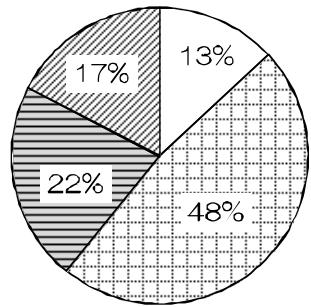
[総病床利用率]

病床利用率	病院数
80%以下	1病院
80~85%	2病院
85~90%	1病院
90~95%	6病院
95~100%	12病院
平均値	95.3%



[精神科開放病棟病床数]

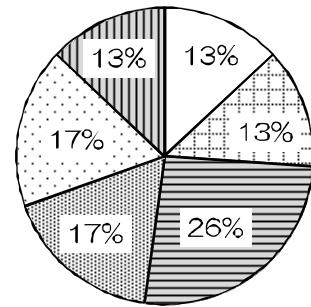
病床数	病院数
1~40床	3病院
41~80床	11病院
81床以上	5病院
なし	4病院
平均値	78.8床



1~40床
41~80床
81床以上
なし

[精神科閉鎖病棟病床数]

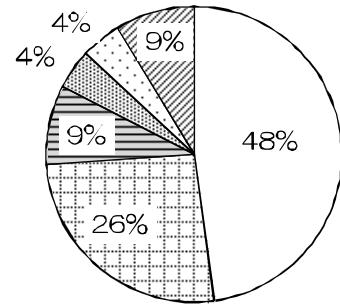
病床数	病院数
1~40床	3病院
41~80床	3病院
81~120床	6病院
121~160床	4病院
161~200床	4病院
201床以上	3病院
平均値	138.5床



1~40床
41~80床
81~120床
121~160床
161~200床

[隔離病床数]

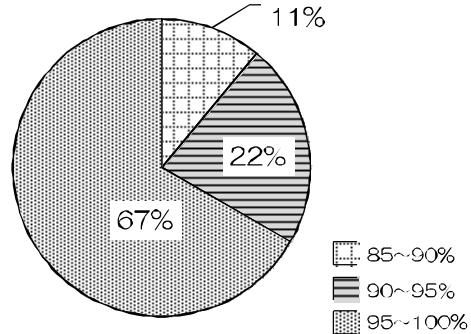
病床数	病院数
1~5床	11病院
6~10床	6病院
11~15床	2病院
16~20床	1病院
21床以上	1病院
なし	2病院
平均値	7.0床



1~5床
6~10床
11~15床
16~20床
21床以上

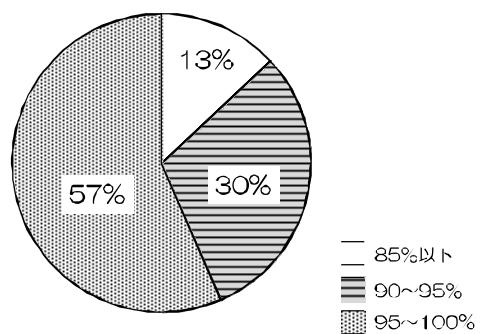
[精神科開放病棟病床利用率]

病床利用率	病院数
85%以下	0病院
85~90%	2病院
90~95%	4病院
95~100%	12病院
平均値	95.8%



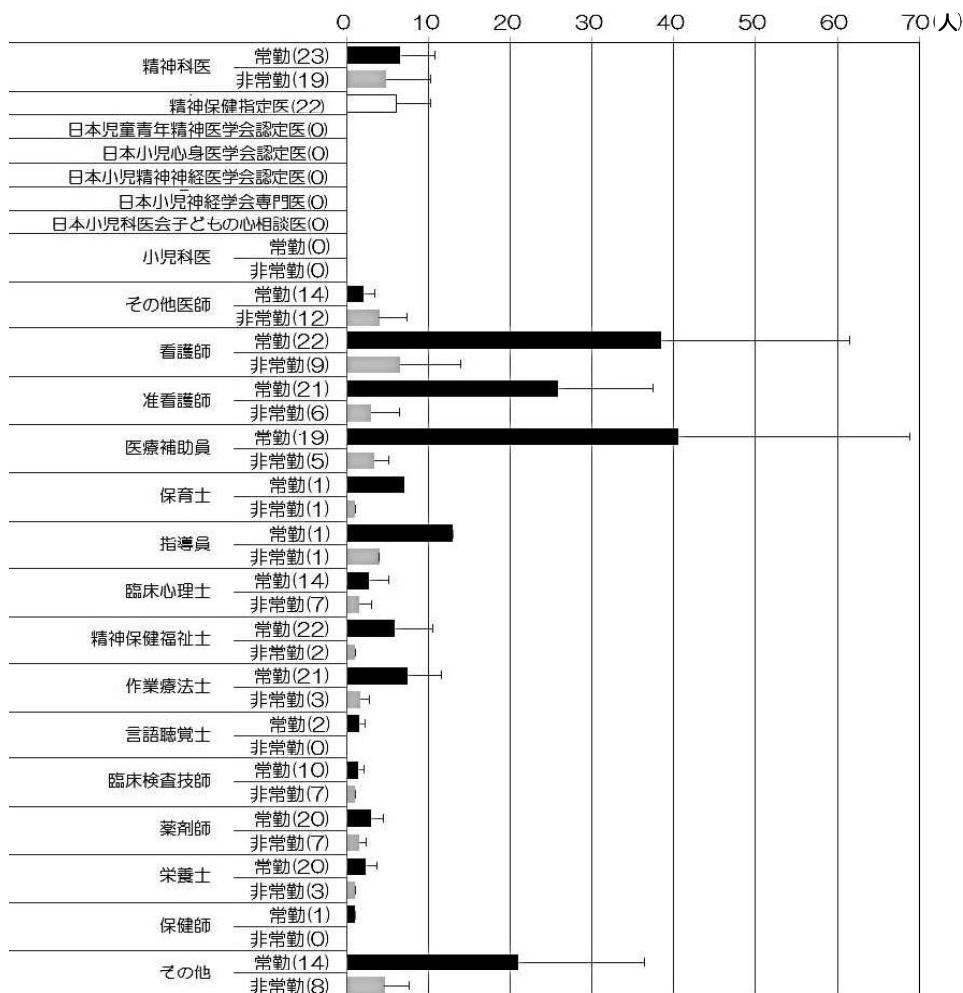
[精神科閉鎖病棟病床利用率]

病床利用率	病院数
85%以下	3病院
85~90%	0病院
90~95%	7病院
95~100%	13病院
平均値	89.5%



③ 従事医師等職員数

[精神科の平均職員数]

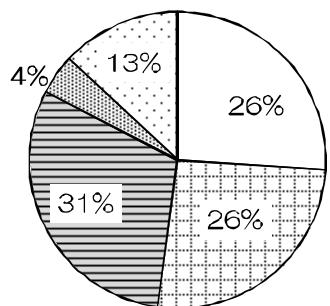


※ () 内は各種職員を有する病院数。誤差範囲は標準偏差。

④ 精神科年間延外来患者数

[外来患者年間延患者数]

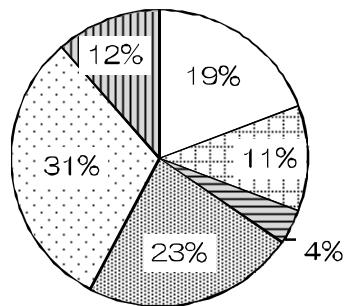
患者数	病院数
10,000人以下	6病院
10,001~20,000人	6病院
20,001~30,000人	7病院
30,001~40,000人	1病院
40,001~50,000人	3病院
50,001人以上	0病院
無回答	0病院
平均値	18,619.8人



10,000人以下
10,001~20,000人
20,001~30,000人
30,001~40,000人
40,001~50,000人

[入院患者年間延患者数]

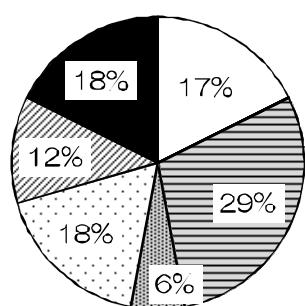
患者数	病院数
20,000人以下	5病院
20,001~40,000人	3病院
40,001~60,000人	1病院
60,001~80,000人	6病院
80,001~100,000人	8病院
100,001人以上	3病院
無回答	0病院
平均値	62,2272.2人



20,000人以下
20,001~40,000人
40,001~60,000人
60,001~80,000人
80,001~100,000人
100,001人以上

[デイケア年間延患者数]

患者数	病院数
2,000人以下	3病院
2,001~4,000人	0病院
4,001~6,000人	5病院
6,001~8,000人	1病院
8,001人以上	3病院
なし	2病院
無回答	3病院
平均値	10,660.1人

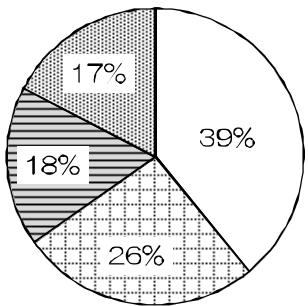


2,000人以下
2,001~4,000人
4,001~6,000人
6,001~8,000人
8,001人以上
なし
無回答

⑤ 精神科年間新規患者数

[外来患者年間新規患者数]

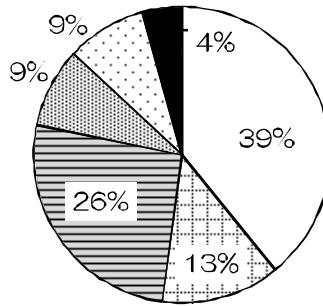
患者数	病院数
200人以下	9病院
201~400人	6病院
401~600人	4病院
601人以上	4病院
無回答	0病院
平均値	355.7人



200人以下
201~400人
401~600人
601人以上

[入院患者年間新規患者数]

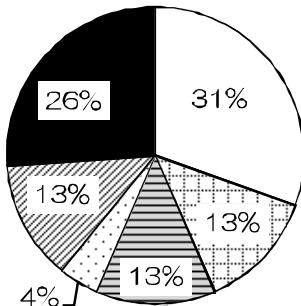
患者数	病院数
100人以下	9病院
101~200人	3病院
201~300人	6病院
301~400人	2病院
401~500人	0病院
501人以上	2病院
無回答	1病院
平均値	209.5人



100人以下
101~200人
201~300人
301~400人
401~500人
501人以上

[デイケア年間新規患者数]

患者数	病院数
20人以下	7病院
21~40人	3病院
41~60人	3病院
61人以上	1病院
なし	3病院
無回答	6病院
平均値	31.5人

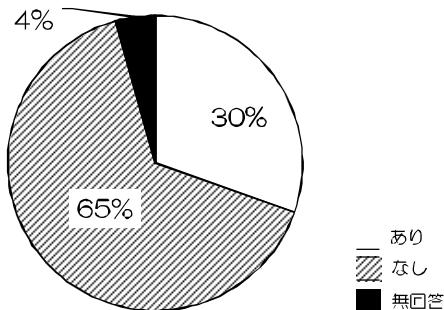


20人以下
21~40人
41~60人
61人以上
なし
無回答

⑥ 精神疾患をもつ児童の診療の実施状況

[児童患者への診療の有無]

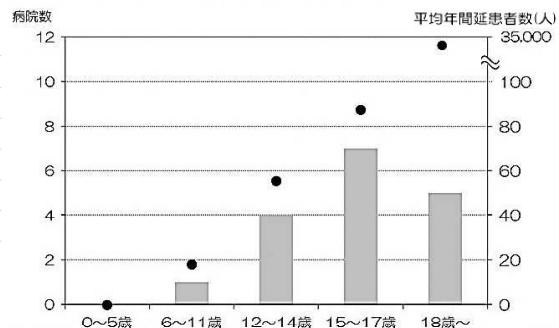
	病院数
あり	7病院
なし	15病院
無回答	1病院



⑦ 各年齢構成の児童患者の診療を実施した病院数、及びその延患者数の平均値

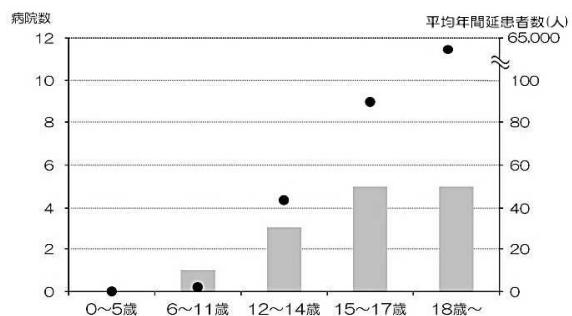
[外来患者]

患者数	病院数	平均年間延患者数
0~5歳	0病院	0人
6~11歳	1病院	18.0人
12~14歳	4病院	55.5人
15~17歳	7病院	87.4人
18歳以上	5病院	33193.8人



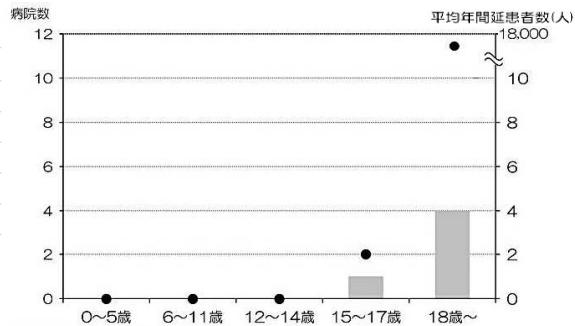
[入院患者]

患者数	病院数	平均年間延患者数
0~5歳	0病院	0人
6~11歳	1病院	2.0人
12~14歳	3病院	43.7人
15~17歳	5病院	89.8人
18歳以上	5病院	62,858.4人



[デイケア]

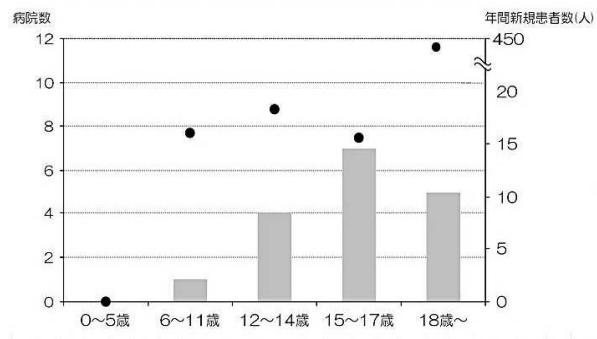
患者数	病院数	平均年間延患者数
0~5歳	0病院	0人
6~11歳	0病院	0人
12~14歳	0病院	0人
15~17歳	1病院	2.0人
18歳以上	4病院	17084.5人



③ 各年齢構成の新規児童患者の診療を実施した病院数、及びその延患者数の平均値

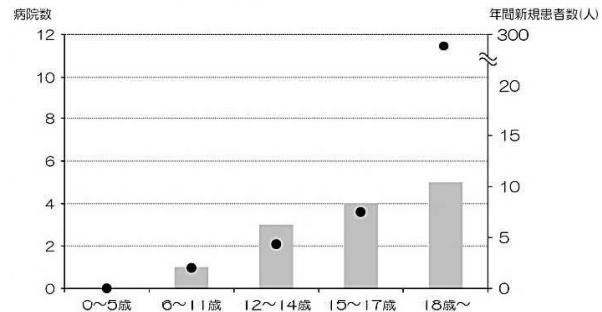
[外来患者]

患者数	病院数	平均年間新規患者数
0~5歳	0病院	0人
6~11歳	1病院	16.0人
12~14歳	4病院	18.3人
15~17歳	7病院	15.6人
18歳以上	5病院	412.4人



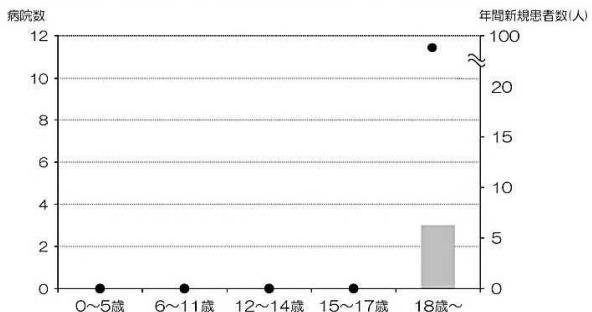
[入院患者]

患者数	病院数	平均年間新規患者数
0~5歳	0病院	0人
6~11歳	1病院	2.0人
12~14歳	3病院	4.3人
15~17歳	4病院	7.5人
18歳以上	5病院	283.4人



[デイケア]

患者数	病院数	平均年間新規患者数
0~5歳	0病院	0人
6~11歳	0病院	0人
12~14歳	0病院	0人
15~17歳	0病院	0人
18歳以上	3病院	89.0人



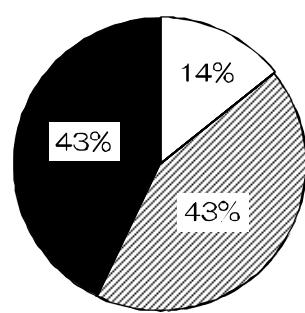
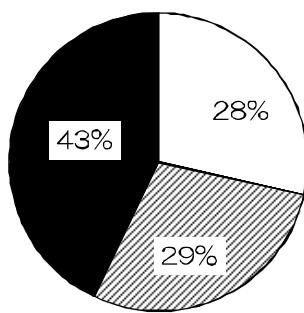
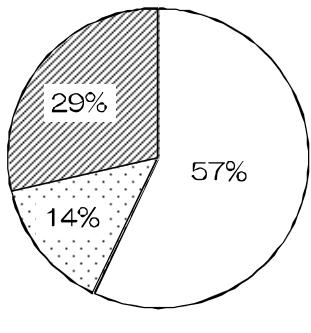
⑨ 入院期間、平均在院日数について

[入院期間 3ヶ月未満の患者数] [入院期間 1年未満の患者数] [入院期間 1年以上の患者数]

患者数	病院数
10人以下	4病院
11~20人	0病院
21~30人	0病院
31人以上	1病院
なし	2病院
無回答	0病院

患者数	病院数
10人以下	2病院
11~20人	0病院
21~30人	0病院
31人以上	0病院
なし	2病院
無回答	3病院

患者数	病院数
10人以下	1病院
11~20人	0病院
21~30人	0病院
31人以上	0病院
なし	3病院
無回答	3病院



— 10人以下 ■ 31人以上
▨ なし

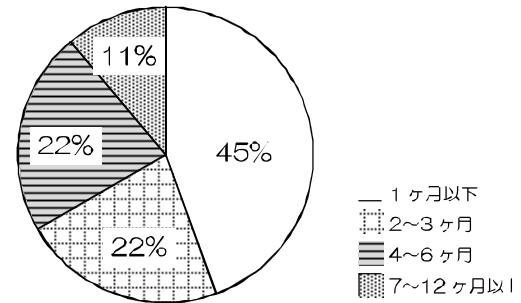
— 10人以下 ■ なし
■ 無回答

— 10人以下 ■ なし
■ 無回答

⑩ 入院待ちの状況

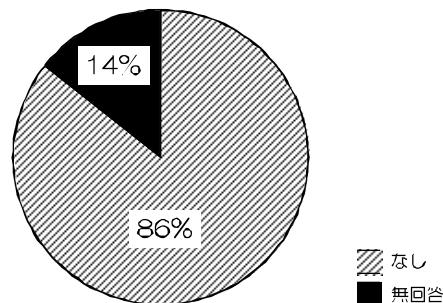
[児童患者の入院待ちの有無]

	病院数
あり	0病院
なし	6病院
無回答	1病院

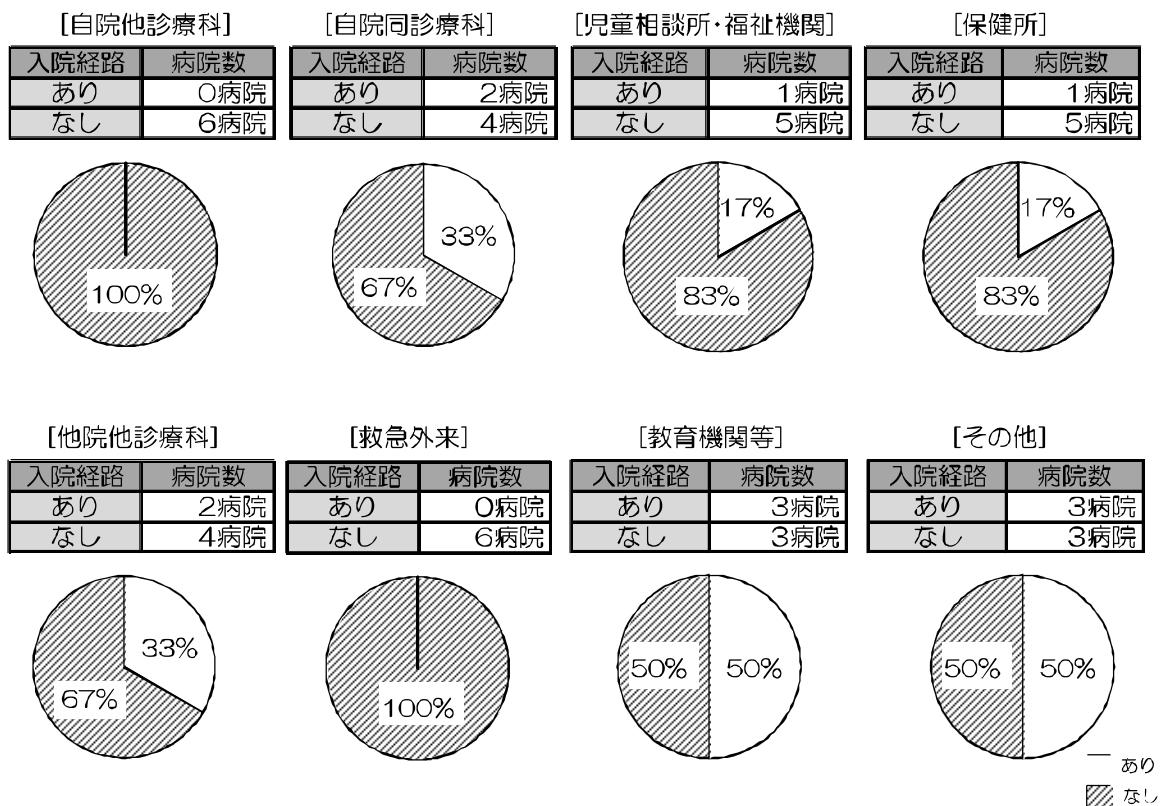


[入院待ち無の理由]

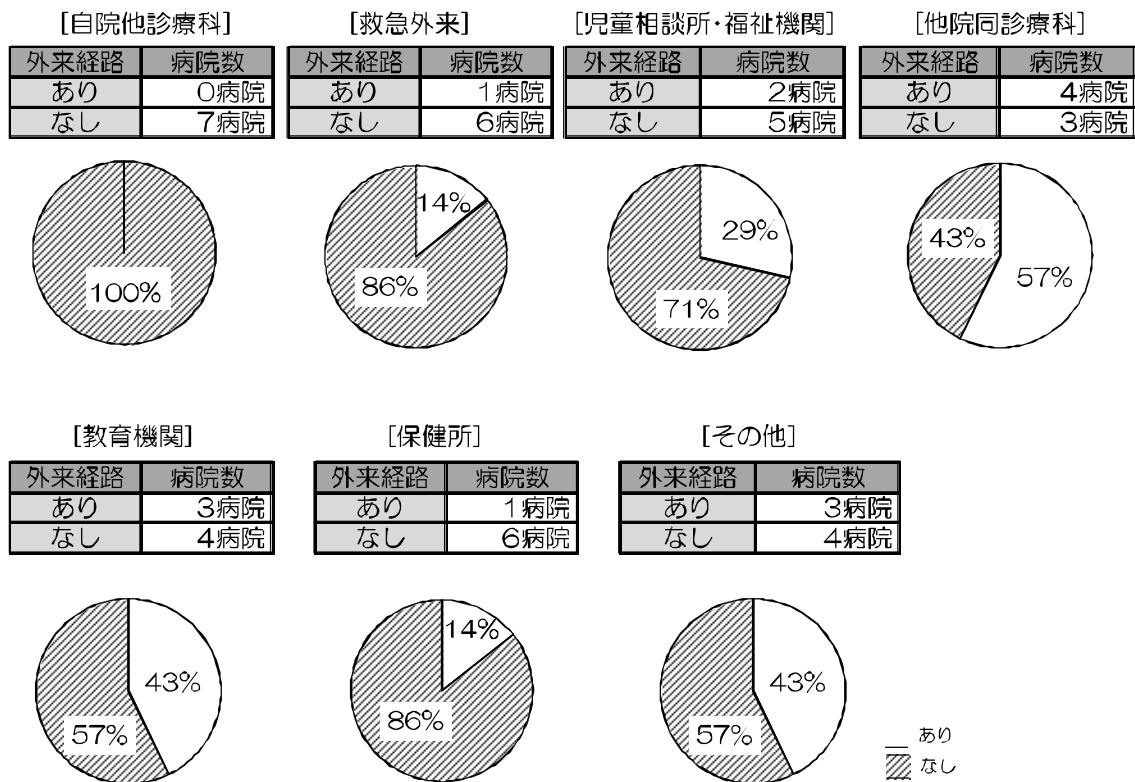
- ・病床調整を実施している
- ・入院を必要とする児童患者が少ない 等



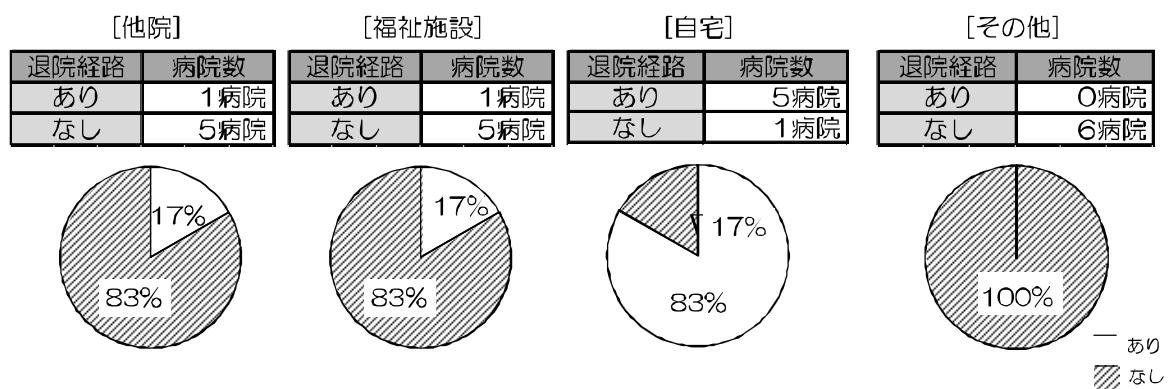
① 児童患者の入院経路について



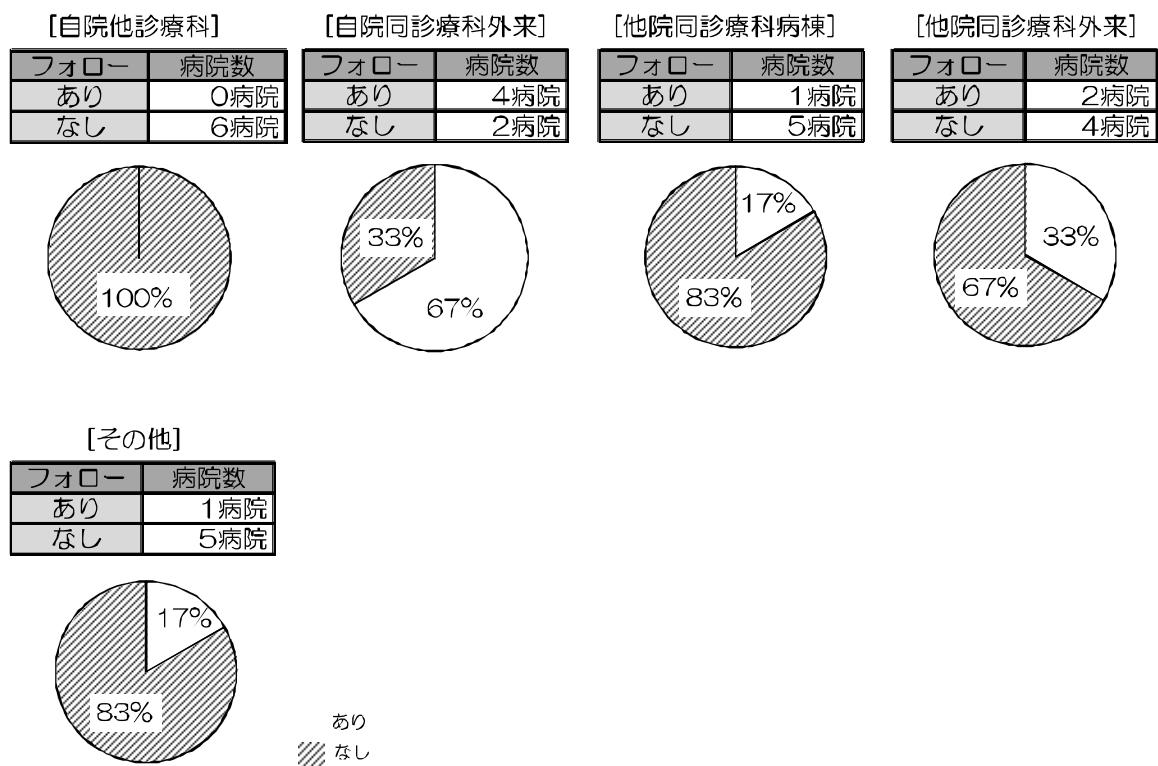
② 児童患者の外来経路について



⑬ 児童患者の退院経路について



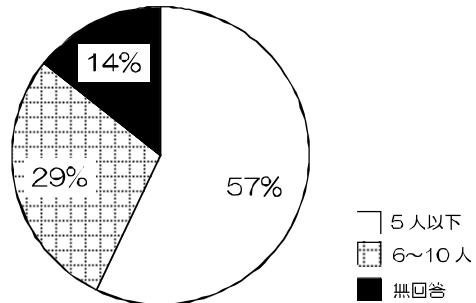
⑭ 児童患者の退院後のフォローについて



⑯ 児童患者の年間紹介件数、逆紹介件数、救急件数について

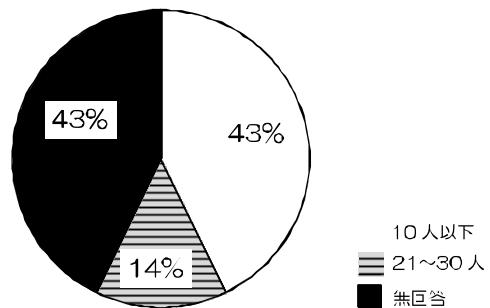
[年間紹介件数]

紹介件数	病院数
5人以下	4病院
6~10人	2病院
11人以上	0病院
無回答	1病院
平均値	3.7人



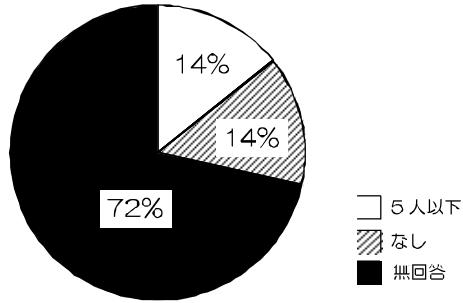
[年間逆紹介件数]

逆紹介件数	病院数
10人以下	3病院
11~20人	0病院
21~30人	1病院
31人以上	0病院
無回答	3病院
平均値	8.8人



[年間救急件数]

救急件数	病院数
5人以下	1病院
6人以上	0病院
なし	1病院
無回答	5病院
平均値	1.0人



2) 児童精神医療に関する意見

※回答内容は、ご返却いただいたご意見を転記することを基本としていますが、回答元が特定されると判断した内容等については、一部改編しております。

① 札幌市における現在の児童精神医療において、どのような問題点や課題点を感じていますか。

分類	内容
供給	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関数が患者数に比べ少ない。 ・高い専門性を必要とするため、公的機関が中心的役割を担う分野ではないでしょうか。民間では人員の配置・確保・維持また設備等のコスト面で難しいのではないかでしょうか。 <p>児童精神科医療を担う医療機関や医療者が絶対的に不足している。</p> <p>児童精神医療のニーズは高く、標榜するクリニックもできてきてはいるが、市内の児童精神科外来はほとんど予約が半年以上の待機になっている。児童心療センター外来に限った事ではなく、児童精神科外来は飽和している。</p> <p>クリニックはそもそも外来で緊急ケースを受ける枠がない。また、緊急ケースは入院を必要とする場合も多い。紹介先のない現状ではクリニックで緊急ケースを受けることが困難である。入院が必要な場合、緊急ケースの場合、特に15歳以下の児童に対応できる精神科はないに等しい。そして、自身の病院に外来通院している患者以外の紹介患者はほとんど受けられない。クリニックの立場から言うと、児童心療センター（小児病棟、のぞみ学園）が入院最後の砦として機能していた。児童心療センターの存続問題は札幌における児童精神医療の危機であるととらえている。</p>
	<p>児童精神科医が少ない。</p> <p>行政機関（児童相談所）との連携が不十分な印象がある。</p>
	<p>児童精神医療は、15歳までは専門的に勉強なさっている医師・コメディカルスタッフが少ないので問題と思われます。精神発達上、15歳以上はほとんど成人に近いので、私は診ております。15歳以上の患者様は児童精神医療に係わっていない精神科医師も治療していくべき少しでも助かるのではないかと思います。</p>
	<p>発達障害、精神疾患に係る問題の早期発見・早期治療を対応する窓口、機関の体制を強化していくことが課題と考える。</p>
	<p>症状が重症・重層化し、長期に渡り不登校を呈している児童・生徒の親から相談を受けることがあります。早期の規則正しい生活と家庭・学校・施設等への社会復帰の重要性を実感します。また、親子分離・親子関係の健全化のため、家族療法・家庭内観が普及されることを望みます。当院では、不登校に12段階療法を採用しており、インターネットで公開しています。</p>

(4) 関係団体

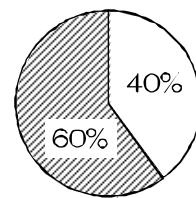
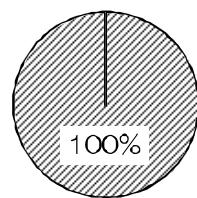
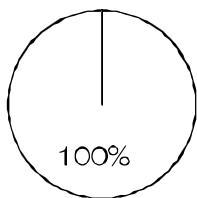
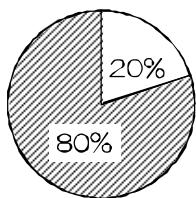
1) 札幌市児童心療センターについて

① 業務に対する優先順位（最優先すべき 1→比較すると優先順位が低い 6）

優先順位	児童精神科外来 (加齢児)	児童精神科外来 (加齢児)	児童精神科外来 (加齢児)	自閉症病棟 (のぞみ学園)	自閉症病棟 (加齢児)	医師等の 民間施設等 アウトリーチ業務
1 (6点)	7団体	3団体	5団体	2団体	2団体	2団体
2 (5点)	1団体	2団体	3団体	3団体	0団体	0団体
3 (4点)	2団体	1団体	1団体	3団体	1団体	1団体
4 (3点)	1団体	1団体	1団体	2団体	3団体	1団体
5 (2点)	0団体	3団体	1団体	1団体	4団体	0団体
6 (1点)	0団体	1団体	0団体	0団体	1団体	7団体
点数	58	42	54	47	34	26
結果	1位	4位	2位	3位	5位	6位

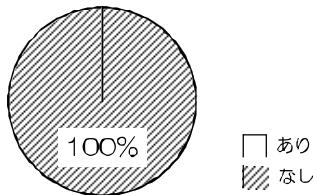
⑯ 退院後のフォローについて

[自院他診療科]		[自院同診療科外来]		[他院同診療科病棟]		[他院同診療科外来]	
フォロー	病院数	フォロー	病院数	フォロー	病院数	フォロー	病院数
あり	2病院	あり	10病院	あり	0病院	あり	4病院
なし	8病院	なし	0病院	なし	10病院	なし	6病院



[その他]

フォロー	病院数
あり	0病院
なし	10病院



⑰ 年間紹介件数、逆紹介件数、救急件数について

[年間紹介件数]

紹介件数	病院数
100人以下	1病院
101～300人	3病院
301～500人	0病院
501人以上	3病院
なし	0病院
無回答	8病院
平均値	525.4人

